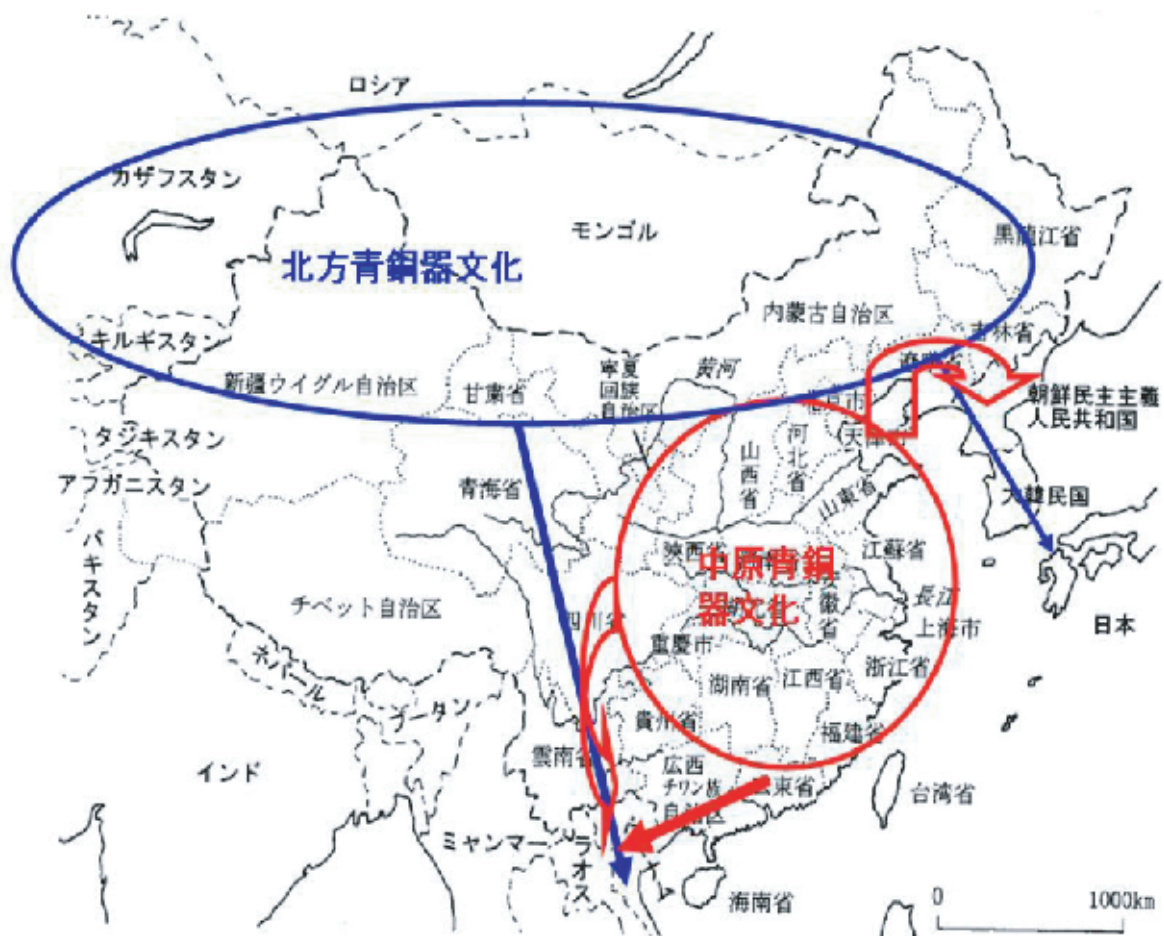


中国西南地区における北方系青銅器文化の生成と展開

研究代表者： 宮本一夫（大学院人文科学研究院）

■研究の目的

現代東アジアにおける地域文化の基層には大きく二つの文化系統が存在します。一つは現代中国の基層ともいえるべき漢文化の基盤となった古代中国中原の農耕社会文化です。もう一つは、その周辺地域に広がる牧畜型農耕社会を基盤とする北方青銅器文化であります。その北方青銅器文化が西南中国（四川東部、雲南）から東南アジア（ベトナム）にかけて伝播し、受容・変容するという仮説を実証するための研究です。



青銅器文化伝播モデル

■研究の内容

この仮説を検証するため、中国国務院の特別許可により、四川省甘孜チベット自治州炉霍県晏爾龍石棺墓地の発掘調査を、九州大学人文科学研究院考古学研究室と四川省文物考古研究院によって実施しました。

13基の石棺墓を発掘し、出土した青銅器からも北方青銅器文化との関係を求めることが可能となりました。また、人骨のC14年代からは、紀元前1300年に遡る本地域の最古の青銅器墓地であることが判明しました。



晏爾龍石棺墓地



8号墓人骨出土状況



7号墓副葬品出土状況



8号墓出土青銅戈



卡莎湖人骨の関節炎



晏爾龍石棺墓発見オオムギ

■ 古人骨調査

四川省甘孜チベット族自治州炉霍県晏爾龍石棺墓地ならびに卡莎湖石棺墓地の人骨調査によって、歯根部の虫歯が多いことと、膝関節炎が異常に多い事実が判明しました。晏爾龍石棺墓の埋土におけるフローテーション分析では、オオムギの存在を初めて明らかにしましたが、歯根部の虫歯は、オオムギの粉食による可能性があります。

卡莎湖石棺墓地の歯冠計測分析からは、本集団が母系社会である可能性が高いことが判明しました。これは文献による伝承とも符合するものです。